

福山大学 図書館報

Library Announcement,
Fukuyama University

創刊準備号

2002.11

<目次>

附属図書館の役割	片岡俊郎……………1
図書館の想い出	重迫隆司……………2
蔵書検索活用法	……………2
感動の時間	王耀義……………4
ミシガン大学図書館探訪	中村明弘……………5
書評『ムギとヒツジの考古学』	福長将仁……………6
明日に向かっての図書館	牛尾一之……………7
教員著作寄贈図書	……………8

附属図書館の役割

附属図書館長
経済学部経済学科教授 片岡俊郎

福山大学の今後ということになれば、経営基盤、教育基盤、研究基盤の確立が必要である。福山大学あつての附属図書館であるから、福山大学と前記三基盤との関係を位置づけた上で、附属図書館の役割を考えてみた。

福山大学の経営基盤を問題にすれば、地域密着をいかに進めるかである。地域密着も抽象的に考えるのではなく、創立以来27年ともなれば、福山大学卒業生との関係、言い替えれば卒業生の大学支持が必要である。卒業生が自分の子供の大学選択に際し、自信を持って母校を薦めることが出来ないようでは、大学の存続はおぼつかない。また、受験生の送り出し先である広島県東部、拡げれば岡山県の西部にある高校の進学指導担当者である先生方の信頼を獲得することが必要である。

福山大学の教育基盤を問題にすれば、受験生の送り出し先である高校と、学生を送り出す社会との関係である。高校教育から大学教育へのスムーズな移行と、大学と社会との結びつきを理解させることの徹底である。大学1年では、高校と同様な科目に見えるが、対象に向ける問題意識、分析視角の重要性を確認させることである。大学2年では、専門科目に関心を向けさせるために、分析用具あるいは専門用語に親しみを持たせる必要である。大学3年、4年では、学生が取得

した学問が実用性を持つか、即ち理論、実験、試験段階だけに通用するものから、現実へ対応できるかどうかを、学生自ら考えさせる必要である。

福山大学の研究基盤を問題にすれば、個性あふれる教員の専門性に対するこだわりの必要性である。学問は、一朝一夕に出来上るものではなく、コツコツと積み上げてやつと目鼻がつくものである。先学に対する尊敬と先学に対する批判は、教員一人一人が無私無心無欲でないと達成できない。一時はやりのテーマも、従来の研究業績との関係で考えてみるのがまず必要であり、専門家を名乗る以上は、少なくとも数篇の論文を提出し、批判を仰いだ上で、新しい専門分野の必要性を説くべきであろう。専門家が専門家としての役割を果たすためには、専門家の業績が、理論段階、実験段階、試験段階で通用するだけでなく、現実社会に対応出来なければならない。

福山大学附属図書館は、前記の課題に答えなければならない。地域密着については、大学が存在する東村町あるいは、福山市西部松永地区の住民と密接な関係を持つように努めなければならない。高校と社会との関係においては、高校の図書館、地域の図書館との差別性を明確に打ち出すべきである。即ち知識の宝庫、情報の宝庫であると同時に、図書館のもつ問題意識が鮮明であることが入館者に伝わらなければならない。専門に対するこだわりは、図書館は専門家に専門の書物、情報を用意するだけではなく、専門家が年に一度、あるいは三年に一度参照するであろう書物、情報への配慮を必要とする。図書館は「知・情・意」の獲得に心がけるべきであろう。

図書館の思い出

人間文化学部人間文化学科講師 重迫隆司

6時をすぎてスクールバスで会うと、「実験でした」と言う学生と、「図書館で勉強してました」と言う学生が多い。授業で説教して疲れた日には、ほっとする会話である。

私の図書館の思い出も、本を借りに行った事よりも、そこで勉強したり、新聞や雑誌を読みに行った事が印象深い。受験生の頃の放課後の高校の図書館、休日の市民図書館の席取り。お金に余裕がなく、新聞をとっていなかった大学生の時には、毎日図書館に通っていた。授業のあき時間や、夕方に。産経、読売と朝日、毎日を読み比べて、「やっぱり〇〇は…」と、右左と生意気に分析して友達と議論したものである。また本の広告は必ずチェックして、本屋に出るのを楽しみに、もどかしく待っていた。そして気になる本が書評に載ると喜んで友人に話していた。

また雑誌の特集、対談も楽しみにしていて、どうしても欲しいもの以外は、図書館に入るのを待って、読みに行っていた。図書館には、雑誌のバックナンバーもあって、以前の、あるいは、昔の巻も読めてとても有り難かった。

単行本になったエッセイや論文が連載中である号を発見して感動したのを覚えている。また、加筆や修正する前の文章を読んで、その意図を探るのもおもしろいことだ。

閲覧室の興味のあるコーナーを眺めながら、手にとって実際にページをめくってみるのも好きだった。思わぬフレーズに出会ったり、今まで知らなかった本を見つけるのも楽しいことである。そんな時偶然先生や友達に会うこともあった。授業中とは違って、さり気なく自然に良い本を紹介してもらったり、文学論を立ち話したり、そこにはない本を借りる約束してもらったりした。友達についてもそうだが、お互い

に興味のある本の前で、話をすると（もちろん小さな小さな声であるが）その人について新たな発見をして、親しみが増し、うれしく思うものである。

好きな音楽や映画もそうだが、持っている本を見ると、その人の事がよくわかると思う。普段の生活では見えない側面や、意外な驚きがある。好きな作家や作品について、興奮しながら、あるいは恥ずかしそうにテレながら語る人の話を聞くのは楽しいし、話もはずむ。狭くて、散らかった下宿で、朝まで語り合った事は良い思い出である。

これは、あまりお勧めすることではないかもしれないが、待ち合わせ場所にも図書館は、とてもいい。例えば、「アメリカ文学のコーナーで3時に」と約束しておけば、相手が遅れても気にならない。好きな本を読みながら待っていればいいのだから。また、少し自分が遅れても申し分けなさが少し減る。（決してなくなるわけではないが。）



私自身は最近では、図書館へ行くことよりも、古本屋めぐりをすることの方がずっと多くなってしまっているが、学生諸君には是非図書館を最大限に利用してほしいと思う。ただ本を借りるためだけではなく、足を運んで見ると、いろいろな利用の仕方ができると思う。上で述べたことが何か役に立てば良いと思っている。

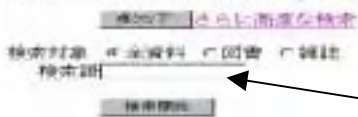
図書館の静かで、明るくて、どこか緊張感のある独特の雰囲気はとてもいい。にぎやかでやかましい普通の生活に疲れた時に、そっと立ち寄ってみると、日常の雑音から解放され、自分のこと、他の人のことを、落ち着いて、安ら became になった心で、暖かく、前向きに考えることができるような気がする。嫌な事があつたり、悩みがあつたりする時にも、そんな図書館の雰囲気の中で、本の背表紙でも眺めながら、解決法を探してみると案外楽になれるような気がするのですが。

蔵書検索活用法

蔵書検索には、“簡単検索”と“高度検索”の2種類の方法があるので、それらを上手く使ってくださいね。

《簡単検索》

枠内に何かキーワードを指定してから、[検索開始]ボタンをクリックして下さい。



単語と単語の間にスペースを入れると AND 検索になります。【例：国語 辞典】

《高度検索》

キーワードを指定してから、下の[検索開始]ボタンをクリックして下さい。

[難しいので、かんたん検索メニューへ](#)

検索対象
 全資料 図書 雑誌

基本キーワード(1)
▼
▼

追加キーワード(2)

追加キーワード(3) ▼ ▼

追加キーワード(4) ▼ ▼

追加キーワード(5) ▼ ▼

以下の検索項目は、単独で指定できません。他の検索項目と併せて入力して下さい。


出版年月

枠内の項目のほかに ISBN・ISSN 等でも検索できます。


書名に含まれている単語で検索できます。

図書の内容、主題をキーワードに検索できます。


図書の背表紙のラベル最上段に書かれている数字です。【例：520.02】



A AND B



A OR B



A NOT B

《検索結果》

所蔵している場合

右のような画面になります。

書名の部分をクリックし貸出中かどうか確認してください。貸出中でなければ、所在を確認の上、請求記号を控えて書架を探してください。

・ 所蔵していない場合

「※該当する資料はありません。」と表示されます。

《その他》

・ 禁帯出資料

参考図書・統計資料など、禁帯出図書が一部あります。この場合、貸出状況欄が空欄でも貸出はできません。

・ 返却日の確認

視聴覚資料棚の側にある2台の蔵書検索専用端末から返却日を確認できます。そちらで検索するか、登録番号を控えてカウンターで尋ねてください。また、貸出中の図書は予約することができます。カウンターで申し込みください。

・ わからないことはどんどん館員に尋ねてください。

※ 該当する資料は1件あります。 [図書詳細](#)

- Page: 1 (of 1) -

[\[閉じる\]](#)

[ロビン・クルーラーの世界](#)

落合 幸二著
東京 : 彩文社・サイエンス・1994
933.6/0 (本題)

- Page: 1 (of 1) -

[\[閉じる\]](#)

↓ 書名をクリックすると…

【書誌番号】 HJ00110286
 【書名】 ロビン・クルーラーの世界
 【出版】 東京 : 彩文社・サイエンス・1994
 【形態】 228p. 127cm. 20cm

請求記号	登録番号	所在	貸出状況
933.6/0	T192001	300 洋書	貸出中

[\[一覧に戻る\]](#)

感動の時間

大学院 経済学研究科 王耀義

私は図書館に通うのが大好きです。その中で特に福山大学の図書館が好きです。経済学の勉強をしている私にとってはレポートを書く時や資料を探す時にも欠かせないところです。時間に追われる生活の中で、何よりも図書館で疲れた体を癒す時間と励みの言葉を贈られたことが有難く、感謝しています。

私は中国古典文学が好きです。小学生の時から唐詩や宋詞はよく読んだものです。留学生生活は常に出会い、別れそして忍耐の物語だと思います。それ故、出会いと別れ、志を多く描いている中国古詩が一層好きになりました。文字で出会うや別れなど単語を書くのは簡単なことですが、同じ釜でご飯を食べた仲間やお互いに認め合った仲間との別れを文章で表すことはとても難しいことです。無才の私は古人の思いに話すしかありません。

杜少府任に蜀州に之く

城闕三秦を輔とし
 風煙に五津を望む
 君と離別の意
 同じく是れ宦遊の人
 海内知己を存す
 天涯も比隣の如し

私が「杜少府任に蜀州に之く」を読む時に、4行目の「宦遊」の言葉に「学遊」を入れ替えて読みます。「学遊」は他の学校で勉強するために他郷に住むことです。同じく異国で勉強する身であって見れば、別れるのは辛いけれども、天下にあなたという友があると思えば、たとえ天の果てであろうとも隣同然なのです。

古代人は家族はもちろん、友の旅の安泰をじっと祈っています。お互いが相手を深く思っていると相手の魂が自分の隣

にいと信じているのでしょう。私は「杜少府任に蜀州に之く」を詠む度にそういうふうに感じています。

乱世に英雄が出てくるのは皆周知のことです。日本では信長、秀吉、家康を始め、多くの英雄が史に名を残しています。多くの志を描く中国古詩からその一つを紹介させていただきます。中国の初唐政治家魏徴の「述懐」という詩です。日本でも明治初期の青年達はこの詩に魅せられたそうです。今日でも共感を受けると思います。

中原逐鹿を逐ひ

筆を投じて戎軒をこととす

縦横計はならざるも

慷慨志は猶ほ存す

策を杖ついて天子に謁し

馬を駆つて関門を出づ

纒を請うて南越を繋がん

.

人生、意気に感じ

功名、誰か復た論ぜん

作者は「述懐」で中原逐鹿、捨筆従戎、縦横計など多くの物語を引用し、最後の2行で自身の意気込みを語っていました。「人生、意気に感じ、功名、誰か復た論ぜん」人間と生まれたからには、意気に感じるからこそ第一、功名を立てるとか、立てないとかなどは問題ではないのです。魏徴の「人生、意気に感じ、功名、誰か復た論ぜん」と日本の秀吉の「鳴かぬなら鳴かせてみよう」は似た所が多いと思います。

古代人は言葉が生まれてから生活の中で感じた全ての気持ちを言葉に託して他者に伝えようとしてきました。古詩を詠むことによって私たち後人ともにすべての気持ちを共感し、ともに願うことができます。学園で過ごした感動と中国語と日本語で読んだ古詩の気持ちは決して、忘れられないものです。「伊勢物語」の中に「旅の心をよめ」という言葉があります。これからもずっとこの気持ちを持ち続けたいと思います。

参考文献：『中国の名詩鑑賞4』

ミシガン大学図書館探訪

薬学部教授 中村明弘

1. はじめに

もう7年も前のことになるが、平成7年8月から11月まで約4ヶ月間、私は米国ミシガン大学薬学部 (University of Michigan, College of Pharmacy) に出張し、「臨床薬学教育」についての研修を受けてきた。短期間の滞在ではあったが、米国でのキャンパスライフを体験することができ非常に有意義であった。ミシガン大学で学生達と共に講義を受ける間に、臨床薬学教育において図書館が非常に重要な役割を果たしていることに気がついた。講義を聴講し理解に努めている内に、毎日図書館に通っていたのである。図書館では薬学部生たちとも頻りに顔を合わせたことから、彼らも図書館をよく利用しているようである。そこで、ミシガン大学薬学部という教育現場で、図書館がどのように利用されていたかを紹介したいと思う。また、私は滞在中、キャンパス内の色々な図書館を見学し利用して廻ったので、ミシガン大学の図書館システムで印象に残ったことについても紹介したい。

2. ミシガン大学

ミシガン大学は1817年に設立された州立大学で、現在、23の学部を備え、学部学生と大学院生を合わせた総学生数は約5万人にも上る。1876年には米国の州立大学として初めて薬学部を設置し、以来薬学部は120年余の歴史と伝統を誇っている。薬学部は1学年の学生数が60名前後であり、少数の学生に対して非常に密度の濃い教育が行われていた。

3. ミシガン大学の図書館システム

キャンパス内には7つの主要図書館があり、いつも多くの利用学生で賑わっていた。ミシガン大学の講義は土、日は休みであるが、図書館は祭日以外は日曜日でも開館していた。また、ほとんどの図書館は毎日深夜12時まで利用でき、学部図書館はなんと早朝4時まで開館していたので、本当に驚いた。土、日や午後5時以降は主として学生アルバイトが働いているようであった。

次に驚かされたことは、閲覧後の書籍や雑誌は元の棚に自分で戻してはいけないという規則であった。各人が勝手に間違った棚の位置に戻すと困るということで、利用後は机の上に置きっ放しにしておくのである。すると、学生アルバイトがカートを持って本を集めて廻り、整理して元あった棚の位

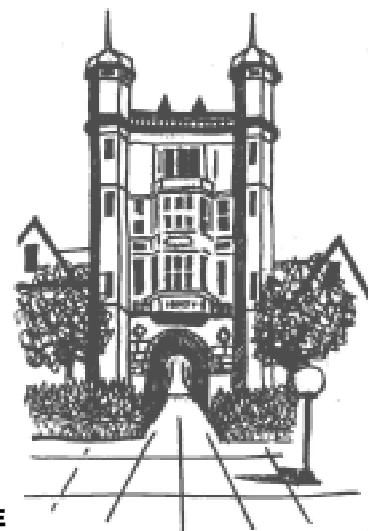
置に戻っていた。このように図書館は、学生達のアルバイト先として機能していた。

コピーは、学内どの図書館でも利用できるプリペイドカードを購入し、コピー機はいつでも自由に使用することができた。コピーは1枚6円であり、プリペイドカードを1枚購入すれば、カードの残高が少なくなると機械に入れてお金を追加することにより、利用額を更新することができた。また、リサイクルのためのゴミ箱がコピー機のそばに置かれており、コピーに失敗した紙を回収するようになっていたことも印象的であった。ただし、当然ながら失敗コピーの代金は返却されなかったが。

学内LANのコンピューター端末はどの図書館にも多数設置されており、誰でも自由に使用することができた。ちなみに私は、文献検索の他、インターネットもこの図書館の端末を利用して体験させてもらった。自分が捜している書籍がキャンパス内の7つの図書館のどこにあるか、そしてその本の貸し出し状況・返却予定日についても、コンピューター端末で簡単に検索することができ、非常に便利であった。

4. 自習場所としての図書館

私が滞在中によく利用したのは、もちろん医学図書館であるが、好んで予習・復習などの勉強に利用したのは「大学院図書館 Graduate library」と「法学図書館 Law library」であった。特に law library は、教会のような雰囲気が非常に気に入って、毎日夜11時過ぎまで利用していた。この law library の窓には、アメリカやヨーロッパの有名大学の校章をデザインしたステンドグラスがはめ込まれており、ステンドグラスを見て廻るだけでも十分楽しむことができた。この地上部は自習室として使用されており、近代的な図書館機能は増築された地下部（地下3階まである）に移転されていた。すなわち伝統ある建物として地上部を残したまま、近代的な図書館を地下に増築したこの建物は、アメリカ建築学会賞を受賞したとのことである。



Graduate library は大学院生用の図書館であり、閲覧室以外に勉強用の小さな個室が各階に用意されており、1人で集中して勉強したいときに便利であった。

先にも紹介したように、図書館は深夜まで開館しており、多くの学生が深夜まで真剣に勉強している姿に非常に驚かされた。講義の予習・復習をする学生たちの姿は、昼間はキャンパス内の芝生の上で、そして夜は図書館で数多く見ることができた。「アメリカの大学生はよく勉強する」と聞かされていたが、噂に違わず本当であった。私も大いに刺激を受け、彼らの真似をして、昼は芝生の上、夜は図書館で予習・復習の充実した日々を送らせてもらった。

5. 臨床薬学教育における図書館施設の利用

医学の分野でも、臨床薬学の分野でも米国の研究教育レベルは世界一であろう。それゆえ当然のことながら、米国内の優れた研究報告や教科書は母国語“英語”で書かれている。ここが日本の学生にとって頭の痛いところである。英語圏の学生は、母国語で優れた論文や著書を読めるわけで、彼らに羨望を覚えた。我々日本人は、優れた論文の内容を理解するために、まず語学の壁を乗り越えなければならないからである。

薬学の講義でも、多くの文献や参考書がシラバスに列挙されており、学生は毎回の講義までに教員が選んだ文献や参考書を読んでくることが義務づけられていた。すなわち、毎回宿題が出されているわけで、私もこの宿題をこなすのに必死で、そのため図書館を毎日利用していたわけである。教員は臨床や基礎研究に関する最新の知見を学生に教えようと、どんどん一次文献や総説を課題として読ませていた。日本の大学院生に同じ量の文献に目を通すことを要求することは、語学の壁を考慮するとおそらく不可能であろう。米国滞在中には、このような語学ハンデというものを改めて痛感した。

ただここでも図書館の利用法として驚かされたことがある。それは、教員が推薦図書や文献のコピーを、書庫や閲覧室とは別にある reserve room にキープするように図書館に依頼しておくのである。すると学生は reserve room に行き、受付で講義タイトルと文献や書籍名を言うだけで、すぐに閲覧できるわけである。ただし閲覧は2時間以内に限定さ

れており、多くの学生が利用できるシステムが取られていた。この reserve room では、各教科の試験の過去問も閲覧することができるようになっており、学生達は試験対策に大いに活用していた。

この reserve room の他、医学図書館内にはビデオルームがありビデオ撮影のためのスタッフまでいた。このビデオは、学生が薬剤師の役を演じて患者役の教員に服薬指導をするロールプレイングを記録するのに使用されていた。学生たちは自分が服薬指導する態度をビデオで見て評価するわけである。医学部でもロールプレイングが行われており、ビデオルームと機器は、予約で一杯と言うことであった。このビデオルーム以外にも、学生達がグループ討論できる小部屋もたくさんあり、予約により使用可能とのことであった。

6. おわりに

ミシガン大学の学生達は、キャンパスライフの中で図書館を本当によく活用していた。今回の私のミシガン大学訪問が臨床薬学教育の研修であったため、研究面での図書館利用については述べなかった。しかし、ミシガン大学においても研究活動に図書館が大きく貢献していることは言うまでもないことである。

たった4ヶ月足らずの滞在だったとはいえ、ミシガン大学で臨床薬学を学ぶに当たり、図書館は私にとってもなくてはならない場所であった。大学は知識を産み出す場所であり、図書館は情報が集積する場所である。この両者は車の両輪の関係にあると思われる。福山大学図書館も学内だけでなく、備後地区の情報収集並びに情報発信基地として充実していくことを期待してやまない。

書評『ムギとヒツジの考古学』

薬学部分館長

薬学部教授 福長将仁

小さな航空機の窓から下界を覗く。所々に林があるものの区画整理され果てしなく平坦な西欧の田園地帯がつづく。皮肉屋の私は、人々はこの土地からいったいどれほどの長いあいだ収奪を繰り返してきたのだろうか、ふと思う。がんらいは森林だったろう。そこに住んでいたであろう獣を狩り、

木材は煉瓦を焼きすみかを作り、また燃料として使い尽くし、木がなくなると土地を耕して耕作物を得たに違いない。疲弊した土地の生産力回復のために三圃式農法による輪作を考案したり、近代になってからは施肥をおこなって増収をはかってきた。

中世ヨーロッパではペストが幾度も流行して、人口が半減したと言われるほど焦眉を極めた。そのほかにも結核、ハンセン氏病、コレラなど人間の生存を脅かす感染症は数知れないが、いかなる病原体も人類の増加圧力に抗しきれぬものではなかった。東アフリカのオールドバイ溪谷で二足歩行を始めたサルはやがて人類へと進化、適応放散を繰り返しながら世界中に定住するようになった。この人類の長い歴史の間ずっと人口調節の最大要因は疫病でもなければ戦争でもない、ほかならぬ食料であった。

本書は地中海東部から現在のイラクあたりの「肥沃な三日月」地帯を中心として起こった文明の発生を検証している。旧石器文化の起こりから土器新石器文化への変遷、集落の生成や生活形態の変化さらには遊牧から農耕牧畜社会の形成までを、豊富な資料と綿密な遺構調査にもとづいて考察している。堅苦しいイメージの考古学でなく「いつ」「どこで」なにが始まったか、あるいはどのように変化していったか、平易かつ明快に語る。「ムギ」の耕作による食料の安定供給が人間の定住を可能にし、集落の大規模化そして「文化」の発生を促進した。家畜は英語で **livestock** である。獣を狩

って食料とすることができるが、そういつも獲物にありつくわけでもない。そこで柵をつくって野生動物を囲い込み、欲しいときに食料にすれば、空振りにも終わるかも知れない狩猟に出かける必要もない。野生種を時に導入しながらヒツジの再生産を行う家畜化が紀元前 6500 年にはすでに行われていたと言うから驚く。こうした「ムギとヒツジを中心とした文化」はしだいにヨーロッパ全体に広がっていったのである。「イネの文化」圏の我々にも納得のいく読後感がよい。



『ムギとヒツジの考古学』藤井純夫著（612.27/F：本館）

明日に向かっての図書館

附属図書館事務長 牛尾一之

図書館それは書籍並びに視聴覚資料を「収集・保管・貸出」することを主体とする館です。

私がこの道に入って 47 年となりますが、入った当時と現在を比べると図書館も随分変わってきたものだと思います。

その内 2 点を見てみますと、まず一点ですが当時は図書を探すには目録カードによって調べなくてはなりませんでしたので、時間がかかりました。それが現在ではパソコンを使うことによって、短時間で求めるものに辿り着くことが出来るようになりました。この外の図書館業務についても大部分が電算化されてきています。

もう一点は学外者への図書館開放です。当時はまだ保管を重視していましたので、学外者への開放など夢にも思われませんでした。書籍も現在の誰でもが自由に見ることが出来る開架式ではなく、殆どを書庫に収めてしまう閉架式が主体となっていました。また書籍の貸出しについて当時は書籍を貸してやるんだという保守的観念が多少残っていました。それが現在では書籍を大いに利用してもらおう進歩的観念の方向へと変わってきています。それで自由に書籍が利用出来る開架式に変わってきました。

そして図書館を学外者へも開放するという時代になってきました。

ただ書籍の内容は大学図書館ですので、公共図書館のように一般大衆向けのような書籍ではなく、やはり専門書が中心となっています。しかし、これからの図書館は学外者への開放を重視

することが重要になってきましたので、それに対する資料の選択が必要となってきています。

最後に、これからの図書館はどうあるべきかという皆さんの

ご意見もお聞かせ願いたいと思っております。

どうぞ図書館をご利用下さい。

教員著作寄贈図書 (1999-2001年度)

【経済学部・経済学科】

吉原龍介 『わたしたちの旅行ビジネス研究』 学文社
(689.6/Y)

森川 洋 『ドイツ：転機に立つ多極分散型国家』
大明堂(293.4/M)

【工学部・建設環境工学科】

福本昉士 『構造力学』 山海堂 (501.34/F/1)

森 忠次 『測量学—改訂版』 丸善 (512/M/1)

【工学部・建築学科】

中山昭夫 『鋼構造』 森北出版 (524.6/S)

【名誉教授】

巽 和夫 『町家型集合住宅：成熟社会の都心居住へ』
学芸出版社(527.8/T)

笠井 保 『情報通信とマルチメディア—改訂版』

共立出版(547.48/K)

ご惠贈いただきありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

また、図書館では、本学関係教員著作図書を収集しております。図書を出版される折には是非ご協力ください。よろしくお願いたします。

編集後記

図書館報創刊準備号を発行しました。原稿を寄せていただいた方々にはこの場を借りてお礼申し上げます。館報編集にあたり図書館からは何をアナウンスしようかと考え、よくあると感じられた質問、蔵書検索の使い方を取り上げましたが、改めて感じたのは、利用者の声が届ききれていないことです。そこで、何かわからないことがあれば遠慮なく館員に尋ねてください。また、図書館ホームページでもご意見等受け付けておりますのでそちらにもお寄せください。そして、情報の受信・発信地として期待され、機能する図書館になれば、館報がその一つの役割を果たせればと思います。

(花崎・大谷)

編集・発行 福山大学附属図書館 〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵

<http://libexp.fulib.fukuyama-u.ac.jp/>